

萃

大阪発達総合療育センター機関紙
第21号

社会福祉法人 愛徳福祉会

大阪発達総合療育センター

Osaka Developmental Rehabilitation Center

保険医療機関 南大阪小児リハビリテーション病院

特集:「年間行事紹介」「清水賞・院内学会紹介」



■入職式によせて

社会福祉法人 愛徳福祉会 理事長 梶浦 一郎



明るい暖かい春の盛りとなり多くの花々が咲き誇っています。この希望に満ちた良き日に多くの新しい職員が入職されました事おめでとうございます。また同時に当センターを選んで頂き御礼申し上げます。

この時期は何と言っても桜の花が見事です。私にとっては瀧廉太郎作曲の「花」が一番好きです。文明開化してわずか33年でこのような曲が出されたのは奇跡に思えますが、実は万葉の昔から江戸時代を経て培われてきた日本人の品格と知性があったからこそできたものと思います。このすぐれた感性のDNAが今失われようとしています。心の余裕が無くなり殺伐としています。このような時代だからこそ医療・福祉の仕事の中では暖かい心と美しい知性をもった仕事をしたいものです。



■新年度のご挨拶

大阪発達総合療育センター センター長

鈴木 恒彦



多数の新入職員の方々をお迎えし、いよいよ新年度の様々な事業が開始されます。従来からの事業の障がい児専門病院としての一層の機能の拡充が先ずあげられます。一般医療機関では扱えない小児整形外科・リハビリテーション分野はもとより、心身の発達障害児を包括的に診療し、分園を含めて統括的に機能するものです。また、在宅の重度の障がい児・者の方々の健康を守るための地域包括ケアシステム支援に関わる中核的な地域療養支援病院としての事業も実践的取り組みが拡充されます。今年度の新しい事業としては、当センター利用者の方々への補装具や自助具の提供の利便性を向上させるために義肢装具室の拡充があります。プレーリーくんをはじめとする当センターブランドの装具類を円滑に提供し、治療上の必要性のみならず生活用具としてシームレスの装具サービスを目指すものです。昨年大好評であった近代ボバース小児領域基礎講習会は、今年度も開催予定です。川端新南大阪小児リハビリテーション病院長、田川新分院長をはじめとする諸先生方の御知恵をいただきながら、発達支援と自立支援に焦点をあてた事業展開を皆で協力して進めてまいりましょう。



年 間 行

今回の特集は、大阪発達総合療育センターおよび
最近の多岐にわたる福祉事業展開のなか、ご利用
各事業が工夫を凝らし行事を開催しております。
お子様から成人の方までの療育に沿った行事を、

児童発達支援センター
ふたば

生活介護事業
児童発達支援事業
なでしこ

医療型障害児入所施設
短期入所事業
わかば

4月

入園式

お花見(児童発達)

5月

遠足

春の散歩

変わり風呂

6月

スポフェス(生活介護)
ゲームあそび(児童発達)

7月

夏祭り

感触あそび(児童発達)

七夕
プール

8月

夏祭り(生活介護)
魚釣り(児童発達)

夏祭り
ボランティアイベント

9月

秋の散歩

10月

運動会

バザー(生活介護)
芋ほり(児童発達)

秋の行事
(お月見・ハロウィン等)

11月

5歳児遠足

どんぐり拾い(児童発達)

変わり風呂

12月

クリスマス会

クリスマス・忘年会

クリスマス会

1月

餅つき

正月あそび(児童発達)

変わり風呂

2月

入園式

節分

節分等

3月

卒園式

茶話会(生活介護)
大きくなったねお祝い会
(児童発達)

事

紹

介

び分園の各事業の年間行事を紹介します。
 用者様が少しでも豊かに楽過ごして頂けるように、
 季節を感じて頂くことや、
 ご利用者様とスタッフが一体となり展開しております。



施設	医療型障害児入所施設 療養介護事業 短期入所事業 フェニックス	児童発達支援センター あさしお園	児童発達支援センター ゆうなぎ園
	お楽しみ会	入園式・進級式 家庭訪問	入園式・始業式
	集団遠足	春の遠足	春の遠足
	運動会	日曜参観	
	プール	こどもまつり	
ント	フェニックス祭り プール	プール	
	花火	秋の遠足 お月見クッキング	デイキャンプ (4・5歳児) お店屋さんごっこ
等)	集団遠足	運動会 5歳児おわかれ遠足	運動会 (0～3歳児) 秋の遠足
	集団遠足		
	クリスマス会	生活発表会 クリスマス会	生活発表会 クリスマス会
	お楽しみ会		お正月遊び
	節分		
	カフェフェニックス 茶話会	卒園式・退園式 お別れ会	卒園式・終了式



清水賞

当法人では、平成19年11月に逝去された清水信幸先生(元南大阪療育園園長)のご功績を継承、発展させる目的で「清水賞」を制定し、職員が外部の学会等で発表した論文及び演題を審査し、優秀な職員を毎年の年賀式で表彰しています。

清水賞

症候性側弯患者に対する動的 脊柱装具 (Dynamic Spinal Brace)の座位 機能の新規定量的評価方法	瓦林 直
	郭 彩華
	松井 吉裕
	吉田 清志
	鈴木 恒彦
	梶浦 一郎



清水賞奨励賞

上肢ボツリヌス療法と作業療法を併用した事例紹介 両手遊びの発達が更衣動作に汎化した事例	作業療法士 関口 佑	岸本 晴和
アドバンスケアプランを取り入れた重症児の在宅移行支援	訪問看護ステーション めぐみ	出口 奈和 米持 喬 絹川 美鈴
誤嚥性肺炎後の摂食・嚥下チームリハビリテーション -標語がチームワークに役立った年長脳性麻痺者の一例-		中澤 優子 立石 篤識 彦田 龍兵 藤原真須美 岡村直保子 牛尾実有紀 野原 幹司 田中 信和
在宅支援 ～通園への移行支援を通じて学んだ訪問リハビリテーションの役割～	訪問看護ステーション めぐみ	福田 哲也

平成27年度

院内学会

法人職員の知識・技術の向上を目的として、平成23年10月に教育研修委員会及び教育研修部を新設しました。教育研修委員会では、院内外の研修会・講演会等の立案・実施・評価について協議を行っています。平成23年度までは年末に職員研修会を実施していましたが、教育研修委員会で協議を行い、多職種協働で業務を進めていく中で他部署の取り組みを理解することや発表する機会を設けることにより職員の知識・技術の向上につながると考え、従来の職員研修会から形式を変え、平成24年度より院内学会を開催しています。

理事長賞

軽度の肢体不自由児を対象とした学童期の親子グループについて

医療技術部臨床心理科 今西美那子・阿部 瑠子

臨床心理科では、思春期に向けた新たな試みとして“前思春期”にあたる学童期の親子グループを実施した。対象者は、地域の小学校に通う5年生の親子5組で、月1回のペースで計6回実施し、親グループでは情報共有やテーマに添った意見交換、子どもグループではお楽しみ活動と自己表現活動を行った。

グループでの様子から、同じような障がいをもつ子ども達と出会い、自分の気持ちや思いを安心して表現し、自分らしく過ごせる体験を通して、自己肯定感(自信)を育む機会となったと考えられた。また、この時期は表面的には適応しているように見えても、身体の不自由さからくる困り感に加えて、内面的に人との関係の中でのしんどさや複雑な思いが大きくなってきていることがうかがえた。

したがって、子どもの状態像への周囲の適切な理解や、個別的な配慮、環境の調整といった『合理的配慮』に加えて、しんどさに寄り添うような心理的サポートが大切と考えられた。また、“前思春期”を思春期の準備期ととらえ、親にとっては思春期への心づもりがもてるように、子どもに対しては“仲間体験”“趣味や安心して過ごせる場”“自己表現”“自己肯定感を高める”ような体験や支援が大切ではないかと考えられた。

センター長賞

プロ意識をもって！ 義肢装具室の開設！

義肢装具室 尾崎 和仁・松居 篤史・上野剛士

平成27年1月1日より義肢装具室が開設した。構成は義肢装具士1名、シーティングエンジニア・車いす整備士1名、木工技術者1名で、社会福祉法人では日本全国で3例目の珍しい部署である。業務内容は、①補装具(車いす・座位保持装置・補装具など)の調整や修理及びメンテナンス、②診察の補助(レントゲン撮影後の計測とデータの保存・管理)、義肢装具会社へ製作時のアドバイスなどや制度の説明、③箱椅子・プロンボード・斜面台などの製作販売等である。義肢装具室という名の部署だが、在籍3名は各個人、得意分野を長年経験しており、センター基本運営方針である「個々の専門性の向上に努める」をもとに、今まで積み上げてきた経験値をさらに磨き上げ「プロ意識をもって！」自分たちの専門分野に対し決して諦めない(妥協しない)対応を行っていく。今後は、木工室の大幅なレイアウト変更を行いDSBなどのプラスチック加工を行えるように進め、業務の幅を広げる予定である。また、義肢装具室は他の部署と多く関わり、連携しながら業務を行う部署でもあるため、各職種の方々より意見・要望などいただき更なるレベル向上に繋げていきたい。

園長賞

個別性に応じた排泄ケアの取り組み ～オムツを使用される方の立場になって～

療育部 川副 聖治

現在、当病棟ではほぼ全利用者様がオムツ・尿とりパッドを使用している。しかし、尿漏れが衣服や車いすにまで及ぶ事やパッドの重ね着けによる不快感やスキントラブルを助長しており、夜間のオムツ交換による睡眠の妨げも考えられる。そこで、排泄ケアの質の向上と利用者様の快適な生活の質の向上を考え新しいオムツを導入し評価を行った。結果、新しいオムツは以前の物に比べ薄いが吸収量も高く肌触りも良好であった。適切なオムツ装着方法の統一は1ヵ月程度で浸透でき尿漏れも減少傾向にある。新しいオムツの使用感については、「外出時にオムツを履いている違和感が減少した」など良い意見があり、家族様・スタッフからも同様の意見が聞かれた。日中活動での不快感の解消とオムツによる股関節の動きの制限が緩和されたと考えられ、リハビリ時も動きの制限が少なくなった。さらに、夜間の睡眠の妨げの軽減も見られ生活全体の質の向上に繋がったと考えられる。

排泄介助は個別のアセスメントが非常に重要であり、更に適切なオムツの使用により排泄介助のみならず生活全体の質の向上に繋がると考えられる。引き続き、個別性に応じた排泄ケアについてスタッフと共に追求を続け、利用者様にとって快適な日常生活の提供を保障しなければと強く考えるきっかけとなった。

音楽療法を取り入れた活動 療育部・看護部 福田 裕二・田中 弥生・菅 直樹・谷間多江子

あさしお園の課題別グループ活動での取り組み あさしお診療所 宮本 悠佑・河川 誉真・曲洋子

わかば病棟における集中リハビリテーションと
24時間マネジメントの成果と課題 リハビリテーション部 浅野 香詠・岸本 晴和



院長退任の挨拶

大阪発達総合療育センター副センター長
医療型障害児入所施設フェニックス園長

船戸 正久



2011年4月に梶浦理事長のお誘いで、淀川キリスト教病院から当センターに移動して早5年目となりました。広島前院長の退職後、後任として2013年から3年間南大阪小児リハビリテーション病院院長を務めさせていただきました。昨年からは大阪府立母子保健総合医療センター前整形外科部長川端秀彦先生が赴任して下さり、院長代理を務めていただきました。幸いこの4月からセンターの勤務に集中できる状態となり、院長を引き継いでいただけることになりました。心から嬉しく思います。川端先生は小児整形外科の大家であり、皆さまの期待に沿う医療を誠実に実践していただけると確信しています。引き続きご支援を宜しくお願いいたします。

院長新任の挨拶

南大阪小児リハビリテーション病院 院長

川端 秀彦



昨年7月に入社して9ヶ月が経過しましたが、今年度から南大阪小児リハビリテーション病院院長という大役を仰せつかりました。社会福祉法人愛徳福祉会の中核をなす事業が大阪発達総合医療センター フェニックスですが、それはご存じのように医療型障害児入所施設です。ですから医療機関（医療機関としての名称が南大阪小児リハビリテーション病院です）という観点から、センターの機能を統括する立場になったわけです。ただ、当センターにおいては医療機関としての機能と福祉施設としての機能がうまく融合しており、これらを明快に区別して実務を行っているわけではありません。したがって医療機関として適切な医療を提供することはもちろんですが、「医療に支えられた福祉支援をおこない、子どもたちの自立をめざしていく施設」の一員として努力していくことが大切だと思っています。また、職員全員がやりがいを持って気持ちよく働くことができる環境を作っていくことも大切な役目だと理解していますので、どのような、小さなことでもよいので提案があれば是非聞かせてください。もちろん不満だけ言いに来てもらってもかまいません。

肩書きが変わったとたんに自分のキャリアが変わるわけではありませんので、これまでと同じように自分の臨床も続けていくわけですが、大切な役割がもうひとつ加わったと思っています。梶浦理事長、鈴木センター長、船戸副センター長のご指導のもとに、皆さまとともに頑張っていこうと思いますので、これからもよろしくお願いたします。

新たな気持ちで

あさしお園 園長 西野 紀子



4月から、新しく園長を務めることになりました。これまで、7年間あさしお園で理学療法士として、家族を中心とした療育の実践を目指してきました。

あさしお園は小さな施設ですが、その小ささがメリットとなり、子どもたちとご家族、職員が自然に、空間と時間を共有できています。みんなの明るい声がいたるところで聞こえ、廊下では大好きな滑り台で遊び、ちょっとしたケンカもあります。お母様方にとっては、お互いを助け、励まし、認め合う仲間と出逢い、まさにみんなが育ち合い、地域生活への土台を築く場所となっています。

福祉型の児童発達支援センターとして機能も多様になり、発達障害療育事業「うさぎさ」も始まりました。私自身は、これまで少し距離のあった社会・福祉制度などについても勉強し、子どもとご家族がその人らしく、楽しい生活が送れるような支援の在り方を模索していきたいと思っています。

また、昨年は9月から11月にかけてセンターで開催された近代ホバース概念8週間講習会に参加し、指導について学ぶ機会をいただきました。ホバース法の概念は、子どもの成長・発達・生活を支える療育の基本とつながるものであることを改めて確信しました。

「医療で子どもたちの生活をささえる」ことを実現するための架け橋となるよう努めていきますので、皆様のご指導・ご協力をよろしくお願いたします。

はじめまして

分園長 田川 哲三



はじめまして、4月1日より分園で働くことになった田川です。

昭和52年に大学を卒業し、大阪大学小児科に入局いたしました。阪大病院で研修後愛染橋病院に2年間、阪大病院に10年間、大阪府立母子保健総合医療センター小児神経科に2年半、大阪厚生年金病院（現地域医療機能推進機構大阪病院）に23年間勤務いたしました。小児の神経疾患を主として扱う小児神経学を専門として勉強してきました。小児神経学では最も患者数の多いてんかんをはじめとするけいれん性疾患、脳の血管障害、筋疾患、脳の代謝異常、などを扱っています。けいれんは子どもでは非常によく遭遇する症状で、その原因も様々です。一番多いのはいわゆる発熱時のけいれんで、単純な熱性けいれんが大部分ですが、中に脳炎、髄膜炎など重篤な疾患が混ざっています。救急の場ではこの鑑別が非常に重要となっています。てんかんも稀ではない疾患です。脳性まひなど運動障害や知的障害、最近では発達障害といった障害を有する子どもに合併することもよく知られています。しかし、てんかんという病気はまだ偏見や誤解を受けていることが多い病気です。学校生活での制限を受けることも稀ではありません。治療に時間はかかりますがてんかんは、特に子どもの時に発症するものは80%以上が服薬をやめることができます。医療従事者でもまだだてんかんという病気について正しい知識を持っていない人も見られ、悔しい思いをすることもあります。少なくとも医療従事者の方々には正しい知識を持って欲しいものです。もちろん発作を抑制することがゴールなのですが、運動障害、知的障害などを合併している子どもでは発作のコントロールが困難な人も少なからず見られます。薬の種類、量ともに多くなり、いろんな副作用に苦しむこともあります。治療する側としては抗てんかん薬の副作用などで日常生活に支障をきたさないようにと服薬のメリットとデメリットのバランスに注意しながら投薬しています。子供たちのQOLを中心に考えた治療をこれからも続けたいと願っております。

今までは病院で医療を介して子どもたちのお世話をしていますが、療育センターでどういことができるのかを勉強しながらやってゆきたいと思っています。ご指導、ご協力をよろしくお願いたします。

ご挨拶

ゆうなぎ園 園長 岩元 康



新緑の若葉が輝き、風薫る季節になりました。新年度が始まり、いきいきとした活動のスタートにふさわしく感じられます。ゆうなぎ園でも9名の新しいお友だちを迎え、みんな元気に活動をスタートしました。

そのような中、この4月からみなさんと一緒にゆうなぎ園で新しい生活をスタートしました岩元です。昨年度まで2年間でしたが、あさしお園長としてお世話になりました。今年度からはゆうなぎ園長として難聴のお子さんやご家族の方と過ごさせていただいています。障がいの種別こそ違いますが、お子さんへの愛情やご家族の方への支援に対する思いは変わりません。微力ではありますが、誠心誠意寄り添って参りたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

近年、難聴児を取り巻く環境は大きく進化しています。早期発見による低年齢児からの早期支援、補聴器の進歩や人工内耳の普及による聴覚活用などQOLの向上を目指した支援が多く行われるようになりました。また、手話言語法の制定に向けた採択や条例の制定など国や地方の行政施策、社会への啓発も進んでいます。しかし、周囲の理解や公的な援助の市町村格差、施設数の不足など課題もまだまだ残されています。

ゆうなぎ園では、お子さんやご家族の方の実情やニーズに応じたきめ細かな支援とともに、そうした課題に対しても取り組んで参りたいと思います。

スタッフ一同、みなさまのご理解とご協力を厚くお礼申し上げますとともに、今後ともより一層のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

イベントトピックス

あさしお園卒園・退園式

3月23日あさしお園で第38回卒園・退園式が行われ、卒園児6名(並行通園児7名は別日)と13名の退園児がこの日巣立ちました。岩元園長先生から一人一人に療育証書や成長の記録を手渡して頂き、子ども達の成長を改めて感じる事ができました。これからは、支援学校や地域の小学校、幼稚園・保育所・こども園で元気に明るく過ごして下さいね!



あさしお園入園・進級式

4月4日入園・進級式が行われました。今年度は17名のあさしおつ子を迎えました。お母さんも子ども達も嬉しげに緊張していましたが、進級したお兄さん・お姉さん達に迎えてもらって、とても暖かい雰囲気にもなりました。少しずつ園の生活に慣れて、笑顔の花を咲かせていきましょうね!



通園部ふたば卒退園式

3月20日

平成27年度は14名の子どもたちが卒退園し、小学校・保育所・幼稚園へと巣立っていきました。卒退園児には、鈴木園長からの証書が手渡されました。立派に証書を受け取る子どもたちの姿を見て、改めて子ども達の成長を感じ、胸が熱くなりました。春からはそれぞれ違う環境での生活が始まりますが、ふたばの思い出を胸に、頑張っていくてほしいものです。



感謝

大阪発達総合療育センターへの御理解・御協力誠にありがとうございます

「寄付金と寄付物品」

一般寄付金

月	寄付者(敬称略)		
1月分	ダイセル労働組合本社支部 楽基金26件	本園	
3月分	川崎 美奈 国際ソロプチミスト大阪中央 井上明生 3月分楽基金 4件 あさしお園父母会		
			あさしお園・ゆうなぎ園

寄付物品

月	寄付者(敬称略)	物品名
2月分	木下大サーカス	大阪花博公園 チケット40枚
3月分	一般社団法人大阪福祉防犯協会	プロジェクター一式 (天吊り)



職員研修実施状況

H28年1月～H28年3月

当センターでは、質の高いチーム医療の提供をめざして、様々な職員研修を行い、技術の向上と知識の蓄積を図っております。

実施日時	企画部署	研修名	講師	参加人数	場所
平成28年1月26日(火) 17:30～18:40	教育研修部	マイナンバー制度について	藤原社会保険労務士事務所 特定社会保険労務士 藤原郁子氏	127名	5階ホール
平成28年1月29日(金) 18:00～19:00	リハ部・看護部	姿勢が変わると食事がうまい	わかば	55名	PT室
平成28年2月1日(月) 17:40～19:00	教育研修部	小児整形外科術後リハビリテーションについて	大阪府立母子総合医療センター リハビリテーション室長 瓦井義広先生 主査 稲垣友里先生	107名	5階ホール
平成28年2月19日(金) 17:40～19:00	教育研修部	ペアレント・トレーニングの考え方 入門編	畿央大学 教育学部 准教授 古川恵美先生	83名	5階ホール
平成28年2月22日(月) 17:40～18:40	教育研修部	職場におけるハラスメント防止のために	有限会社ビジネス・パートナー・オフィス 代表取締役 桑野里美氏	80名	5階ホール
平成28年2月26日(金) 18:00～19:00	リハ部・看護部	末梢の過緊張を和らげて日中活動をおくる ～歯磨き・筆を持つ・靴を履く～	なでしこ	50名	PT室
平成28年3月7日(月)～ 11日(金)	教育研修部	関西医科大学医学部学生地域医療実習	研修責任者 船戸副センター長 指導責任者 飯島小児科医長	関西医科大学 医学部 1年生3名	小会議室他
平成28年3月11日(金) 17:40～18:40	褥瘡管理委員会	褥瘡ケアの基本②	甲南女子大学 看護リハビリテーション学部 看護学科 講師 松田常美先生	58名	5階ホール



大阪発達総合療育センター

URL : <http://osaka-drc.jp>

南大阪小児リハビリテーション病院(保険医療機関)
フェニックス(医療型障がい児入所施設・療養介護事業・短期入所事業)
主として重症心身障がい児者
わかば(医療型障がい児入所施設・短期入所事業)主として肢体不自由児
ふたば(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業)主として肢体不自由児
いぶき(特定相談支援事業・障がい児相談支援事業)
なでしこ(生活介護事業・児童発達支援事業)

〒546-0035 東住吉区山坂5-11-21
TEL:06-6699-8731 FAX:06-6699-8134

発行者・社会福祉法人 愛徳福祉会
発行責任者・梶浦一郎

訪問看護ステーション めぐみ(指定訪問看護事業)
TEL:06-6699-8855 FAX:06-6699-8856
ヘルパーステーション めぐみ(指定訪問介護事業)
TEL:06-7506-9223 FAX:06-6699-8856
あおば(児童発達支援事業)重症心身障がい児
TEL&FAX:06-7507-1277
〒546-0035 東住吉区山坂5-9-16

大阪発達総合療育センター あさしお診療所(保険医療機関)
あさしお園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として肢体不自由児
ゆうなぎ園(児童発達支援センター・保育所等訪問支援事業・障がい児相談支援事業)主として難聴児
〒552-0004 港区夕風2-5-3
TEL:06-6574-2521 FAX:06-6574-2524